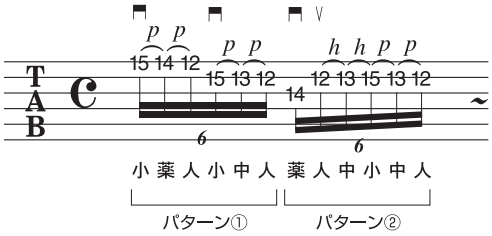
入隊 伝授 出撃 決戦 終幕

注意点1 理論

実はそれほど複雑ではない!? ダグ風レガート・パターン

このメイン・フレーズは、TAB譜を読むと細かくフレーズが展開する複雑な内容のように見えるが、フィンガリング・パターンは大きく分けて1小節目1拍目のパターンと2拍目のパターンの2つしか登場しない（**図1**）。したがって、まずはこの2パターンを集中的に練習してみると良いだろう。このフィンガリングが指に馴染んだら、それぞれが入るタイミングを覚えてほしい。ただし、パターン①は1小節目3拍目の4音目からのようにパターン②の途中から始まることが多く、またパターン②も1小節目4拍目のようにウラ拍からスタートすることが多いので注意すること。**天性の優れたタイム感【註】**を持つダグだからこそできるフレージングとも言えるだろう。

図1　基本となるフィンガリング・パターン（例：メイン・フレーズ1小節目）

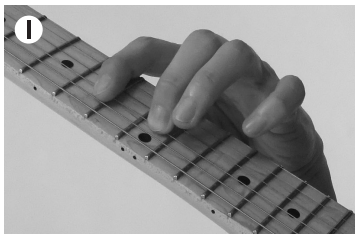


この2つのパターンをポジションを変えながら、さまざまなタイミングで弾く。途中で3音フレーズを挟むことがあるので注意しよう。

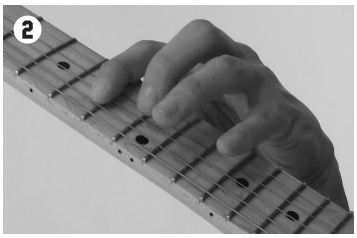
注意点2 左手

人差指はもとの弦上でキープ 弦移動をスムーズに行なおう

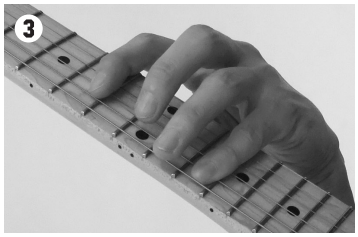
注意点1でも解説したように、このメイン・フレーズは同じフィンガリング・パターンをくり返すため、1音のみ弦移動して、またすぐにもとの弦に戻ることが多い。1音のみの弦移動の直後は必ず人差指になるので、基本的に人差指はもとの弦上で待機させておいた方が良いだろう。2小節目3&4拍目を例に挙げて解説すると、ここはフィンガリングのパターン①とパターン②になっているが、4拍目のアタマで5弦14フレットの小指に弦移動した時でも人差指は4弦10フレット上で待機しておく（**写真①～④**）。また、4弦に戻った際には人差指の先端を5弦に触れて、余弦のミュートを行なうと、ノイズの少ない綺麗なレガート・プレイになるだろう。



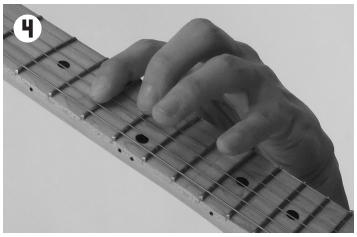
2小節目3拍目。中指で4弦12fを押弦して……



10fを人差指で押さえる。小指の弦移動の準備をしよう。



小指は5弦に移動するが、人差指は4弦上に待機！



人差指の先端を5弦に触れておくと、ノイズが出ない。

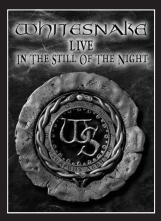
～コラム19～

教官の戯れ言

グルーヴ感のあるリフ、鋭いピッキング・ハーモニクス、スピーディで華麗なレガート……ダグのギター・スタイルは、著者が好きなジョージ・リンチと共通する部分が多い。実は著者は左手のタッピングのみで弦移動を行なう超絶レガートをダグから学んだのだ。彼はライオンやバッド・ムーン・ライジングなどのメロディアスなハード・ロック・バンドで活躍してきたのだが、近年これまた著者が好きなホワイトスネイクに加入した。レス・ポールを低く構えながらも超絶プレイを連発する彼の姿をホワイトスネイクで観た時には、初めて彼のプレイを聴いた時とはまた違う大きな衝撃を受けたね。

著者・小林信一、かく語りき ダグ・アルドリッチ

バッド・ムーン・ライジング
『バッド・ムーン・ライジング』
1991年に発表したデビュー作。ブリティッシュとアメリカンの要素が合わさったブルージィでメロディアスなサウンドが満載だ。



ホワイトスネイク
『イン・ザ・スティル・オブ・ザ・ナイト』
2004年のライヴ映像を収めた映像作品。レガートを中心に超絶プレイを炸裂させるダグのパフォーマンスは必見！

【天性の優れたタイム感】超絶ギタリストは、ソロはもちろんのことリズム・プレイでも高い評価を得ていることが多い。彼らのプレイを研究する時には、指先の細かい動きだけではなく、リズム面にも注目することが大切だ。